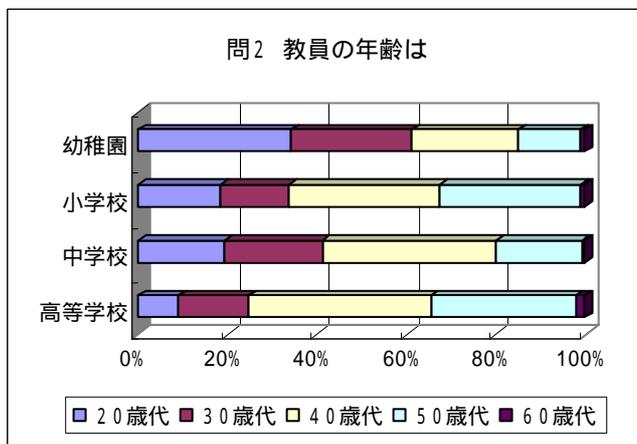
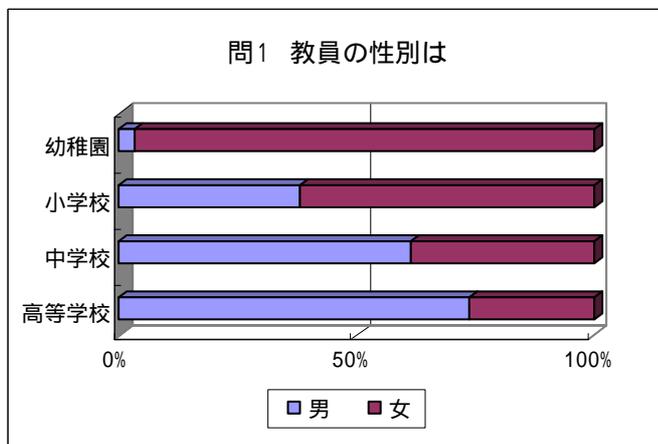


(3) 教員

ア 基礎項目について

(ア) 担当校種，性別，年齢について

性別は幼稚園，小学校の教員は女性の割合が高く，中学校，高等学校では男性の割合が高い。年齢構成は，幼稚園，小学校，中学校，高等学校となるにつれて，高年齢化していく。



イ 教員がとらえている子供について

(ア) 時間を守るについて（園児については，基本的な生活習慣が身に付いているについて）

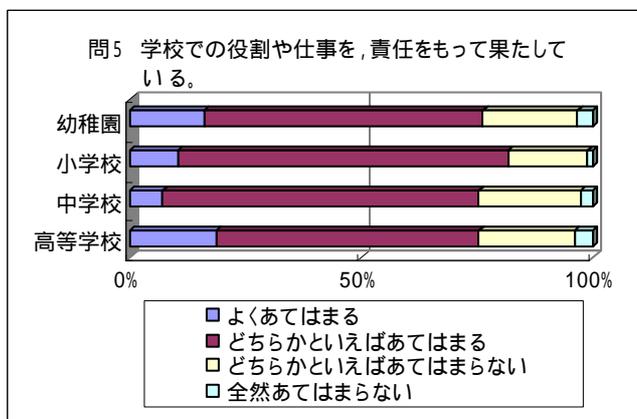
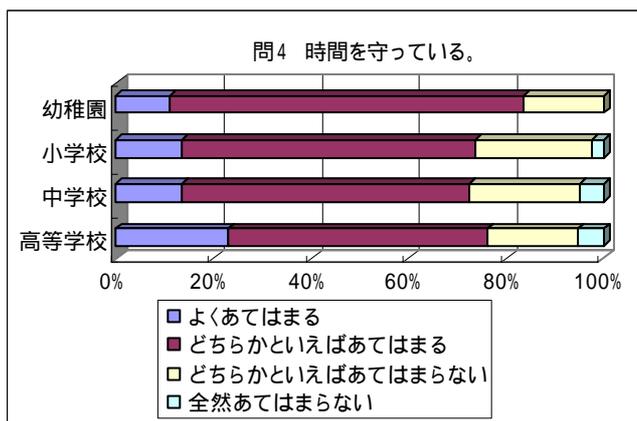
肯定的回答は，全体で74.7%である。校種別みると，幼稚園教員は83.5%，小学校73.5%，中学校72.5%，高等学校76.3%である。幼稚園教員において割合は高く，子供たちを小中高の教員より肯定的にとらえている。

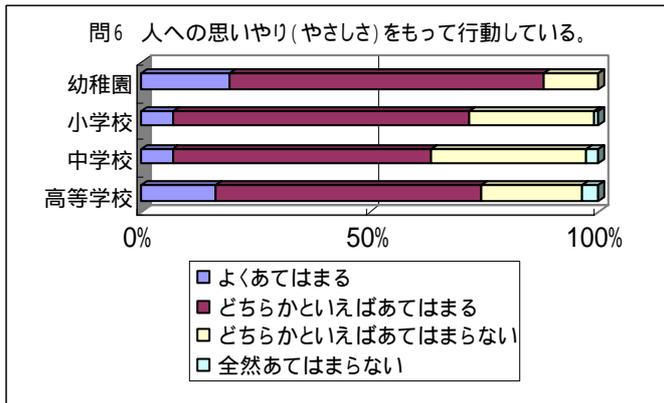
(イ) 役割や仕事を責任をもって果たしているについて

肯定的回答は，幼稚園教員は76.3%，小学校81.7%，中学校75.4%，高等学校75.3%である。小学校の教員は他の校種よりやや割合が高い。

(ウ) 思いやり（やさしさ）をもって行動しているについて

肯定的回答は，幼稚園教員は88.2%，小学校71.7%，中学校63.4%，高等学校74.4%であり，中学校教員の割合が一番低くなっている。幼稚園の教員は，他の校種に比べて子供たちに思いやり（やさしさ）があるととらえている。





【教員】人への思いやり(やさしさ)をもって行動している	
【児童生徒】人にやさしくしている	
教員の回答	71.0%
児童生徒の回答	84.5%

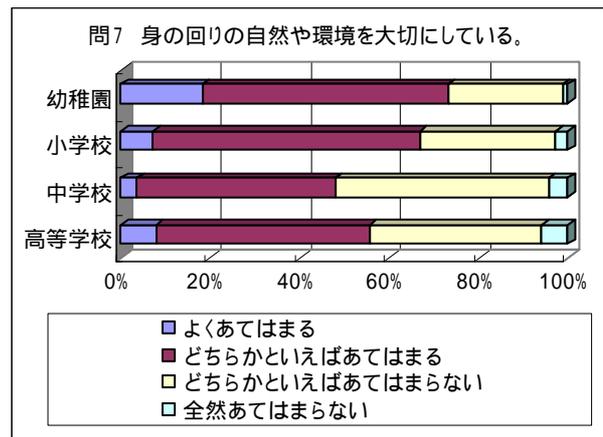
児童生徒の回答と比較してみると、子供自身の「人にやさしくしている」という行動に対するとらえは、教員のとらえより高い。自己評価よりも厳しい教員判断がみられる。子供の判断と教員の判断基準が異なることも考えられるが、教員が子供の実態に気付いていないことも想像できる。子供たちの実態をしっかりと把握して、思いやりの心をはぐくむ指導を考えていかなければならない。

(I) 自然や環境を大切にしているについて

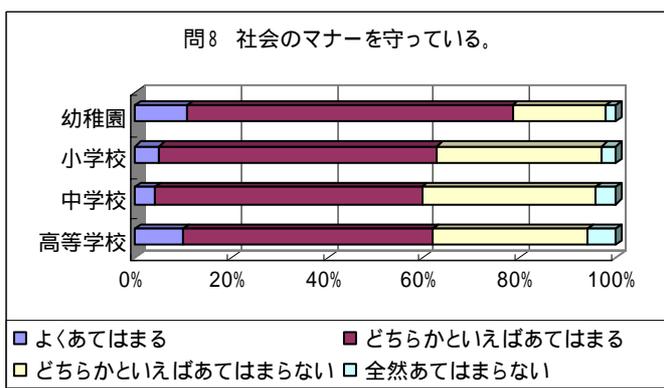
肯定的回答は、幼稚園教員は 73.1%，小学校 66.7%，中学校 48.0%，高等学校 55.7%である。小学校，中学校としたいに割合は低下する。

(オ) 社会のマナーを守っているについて

肯定的回答は、幼稚園教員は 78.5%，小学校 62.7%，中学校 59.7%，高等学校 61.9%であり、幼稚園の教員に比べて小中高の教員の意識は低い。小中高の間に差はない。



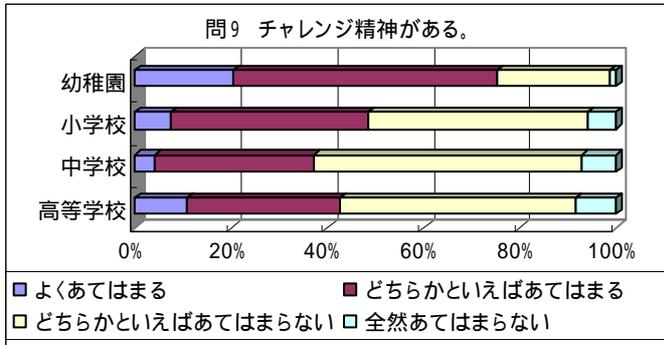
児童生徒の回答と比較してみると、子供自身の「きまりを守っている」という行動に対するとらえは、教員のとらえより高い。自己評価よりも厳しい教員判断がみられる。子供の判断と教員の判断基準が違うのであろう。子供の判断が甘いのであれば、道徳の授業等でその基準を上げていく必要があるのではないだろうか。



【教員】社会のマナーを守っている	
【児童生徒】学校のきまりを守っている	
教員の回答	62.2%
児童生徒の回答	82.7%

(カ) チャレンジ精神があるについて

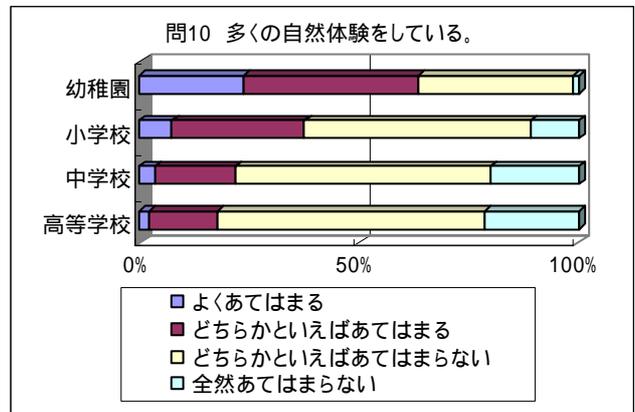
肯定的回答は、幼稚園教員 75.2%，小学校 48.7%，中学校 37.2%，高等学校 42.8%であり、幼稚園に比べて小学校，中学校，高等学校の教員のとらえは低い。中でも中学校の教員が低い。児童生徒の回答と比較してみると、子供のとらえは、教員のとらえより高い。



【教員】チャレンジ精神がある	
【児童生徒】あらゆることに自分から進んでチャレンジしている	
教員の回答	44.2%
児童生徒の回答	61.7%

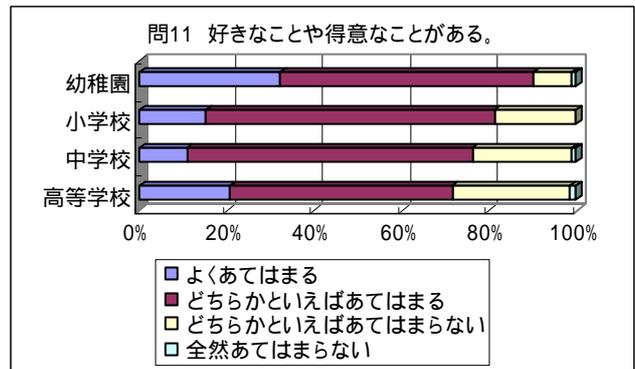
(キ) 自然体験をしているについて

肯定的回答は、幼稚園教員は 63.5%，小学校 37.6%，中学校 21.8%，高等学校 17.5%であり、教員のとらえは、幼・小・中・高の順に低下する。否定的回答は、全体で 73.6%である。



(ク)好きなことや得意なことがあるについて

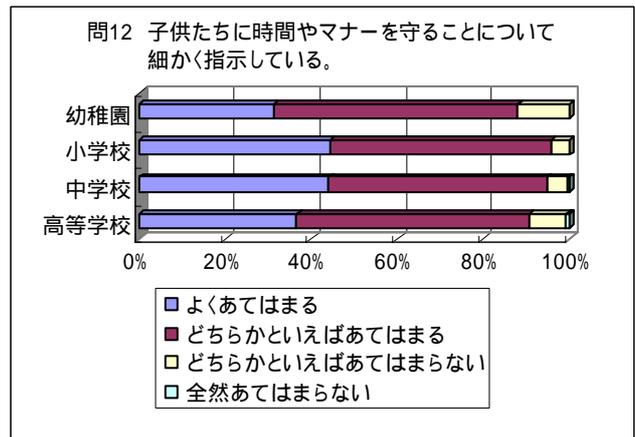
肯定的回答は、幼稚園教員は 90.4%，小学校 81.2%，中学校 76.3%，高等学校 71.7%であり、教員のとらえは、幼・小・中・高の順に低下する。



ウ 教員自身について

(ア) 子供たちに時間やマナーを守ることについて細かく指示しているについて

肯定的回答は、幼稚園教員では 88.2%，小学校 95.8%，中学校 94.8%，高等学校 90.7%である。教員は時間やマナーについて日ごろから指導していることがよく分かる。



(イ) 子供たちが責任をもって役割を果たすように指導しているについて

肯定的回答は、全体では96.0%で、幼稚園教員は86.0%、小学校97.8%、中学校97.2%、高等学校95.0%となっている。教員は問12と同様に、「責任をもって役割を果たす」ことについても常日ごろ指導していることが分かる。

(ウ) 子供たちに思いやりのある心を育てようと心掛けているについて

肯定的回答は、全体では95.9%で、幼稚園教員は97.9%、小学校98.0%、中学校97.0%、高等学校93.1%である。教員は「思いやりのある心を育てよう」と心掛けていることが分かる。しかし、興味深いのは、「よく当てはまる」についてみると、幼稚園教員は78.5%、小学校58.8%、中学校53.3%、高等学校38.0%となっており、子供の年齢が上がるにつれて教員の意識は低下している。

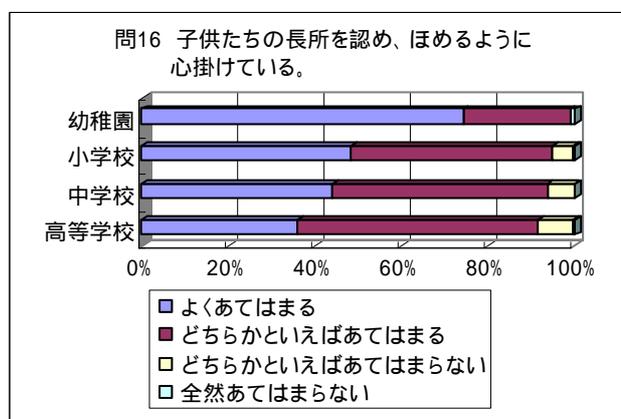
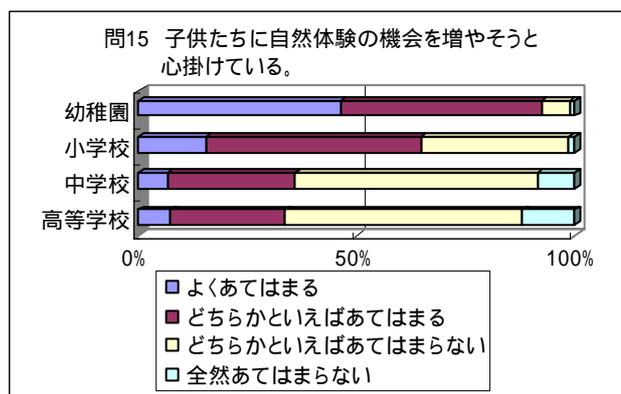
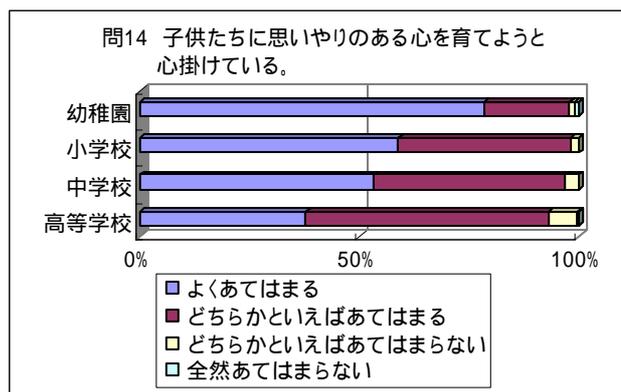
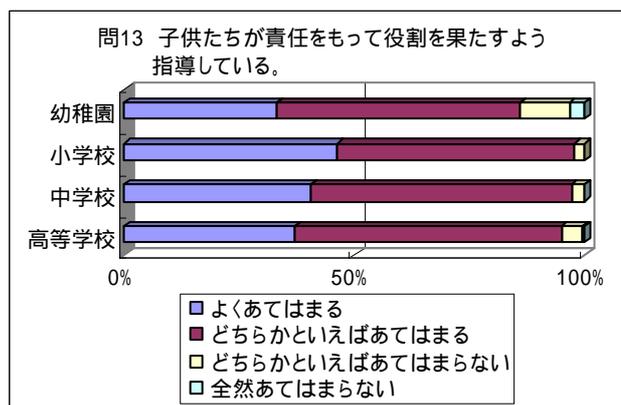
(エ) 子供たちに自然体験の機会を増やそうと心掛けているについて

肯定的回答は、幼稚園教員は92.4%、小学校64.8%、中学校36.0%、高等学校33.6%となっている。

(オ) 子供たちの長所を認め、ほめるように心掛けているについて

肯定的回答は、全体では93.3%で、幼稚園教員は98.9%、小学校94.8%、中学校93.7%、高等学校91.3%である。幼稚園教員で最も割合が高い。

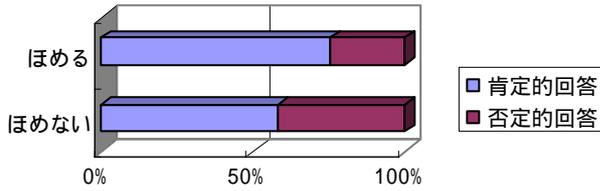
「子供たちの長所を認め、ほめるように心掛けている」という肯定的回答の教員と、「心掛けていない」という否定的回答の教員で、子供のとらえがどのように異なるかをみるため「(子供たちは)時間を守っている」、「(子供たちは)学校での役割や仕事を、責任をもって果たしている」、「(子供たちは)人への思いやり(やさしさ)をもって行動している」、「(子供たちは)社会のマナーを守っている」の4項目についてクロス集計を行い比較してみた。



クロス集計 1

問16 子供たちの長所を認め、ほめるように心掛けている。

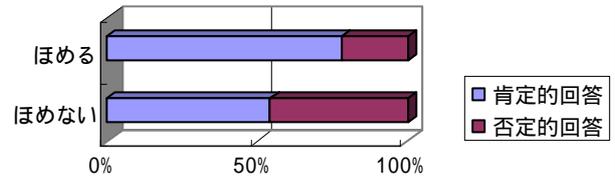
問4 (子供たちは)時間を守っている。



クロス集計 2

問16 子供たちの長所を認め、ほめるように心掛けている。

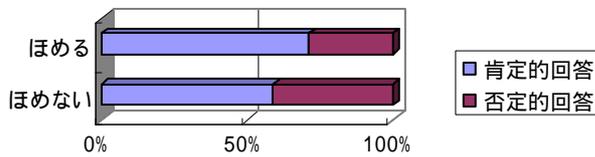
問5 (子供たちは)学校での役割や責任を、責任をもって果たしている。



クロス集計 3

問16 子供たちの長所を認め、ほめるように心掛けている。

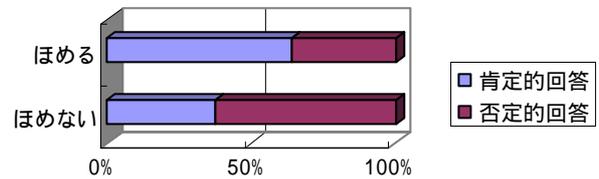
問6 (子供たちは)人への思いやり(やさしさ)をもって行動している。



クロス集計 4

問16 子供たちの長所を認め、ほめるように心掛けている。

問8 (子供たちは)社会のマナーを守っている。

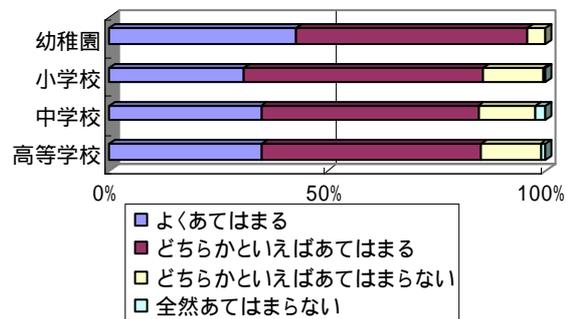


いずれも肯定的回答が、否定的回答を上回っている。児童生徒をほめるように心掛けている教員は、この4項目について児童生徒を肯定的にとらえている。

(カ) 動植物を大切にしているについて

肯定的回答は、幼稚園教員では95.7%、小学校85.5%、中学校84.5%、高等学校85.2%で、幼稚園の割合が高い。(問17 グラフ)

問17 あなたは、動植物を大切にしている。



エ 教員が望む子供の将来の姿について

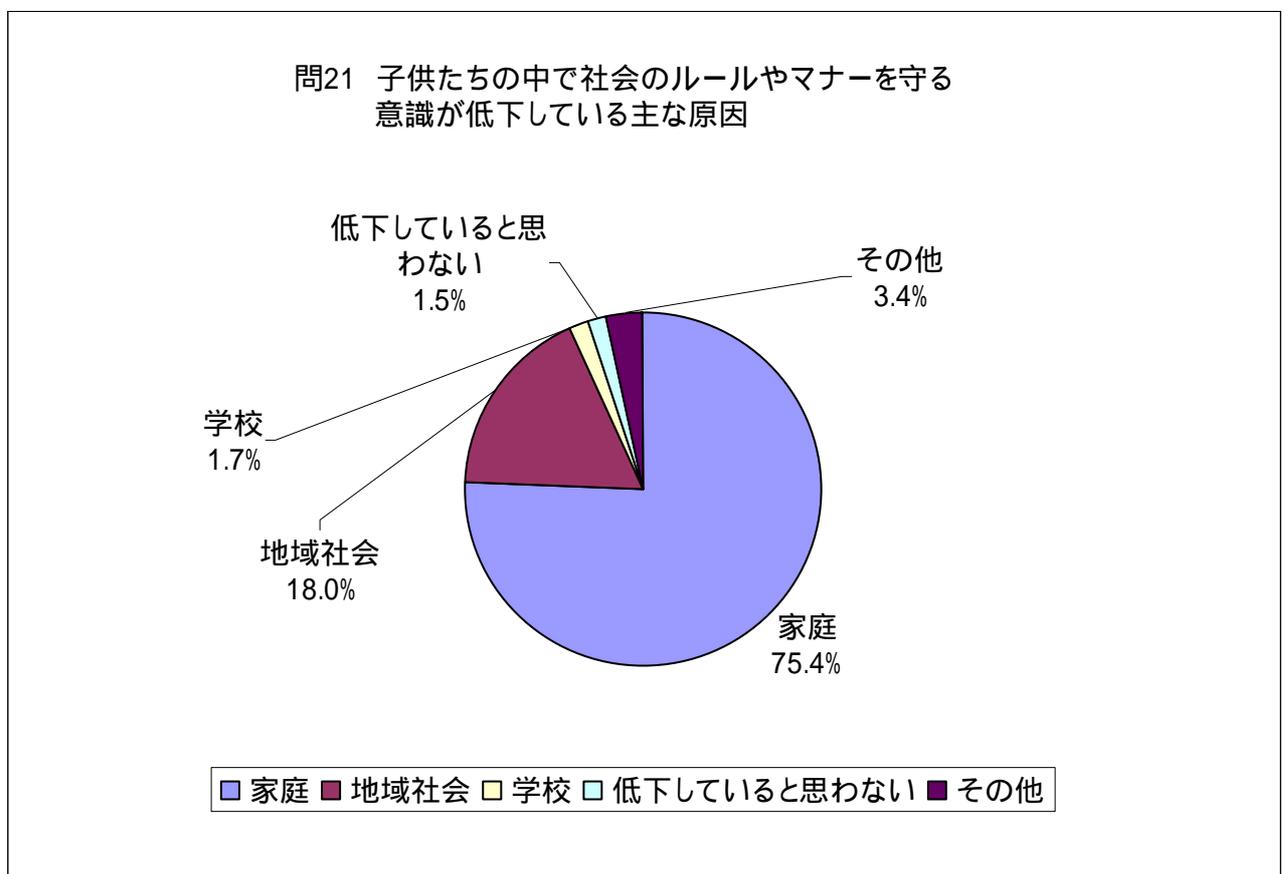
回答は「一番目に思うもの」、「二番目に思うもの」、「三番目に思うもの」と、三つを選択するようにした。一番目、二番目、三番目のそれぞれに選択されたものを高い割合順にまとめると以下のようになる。

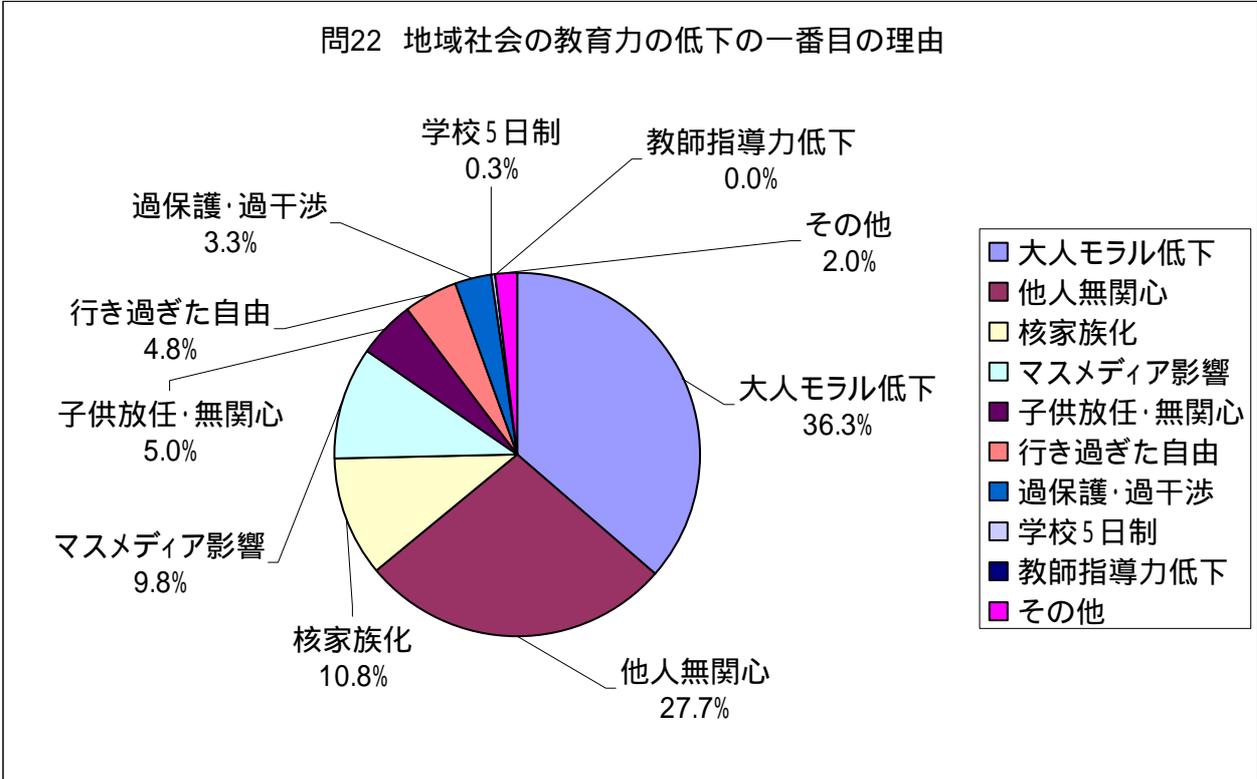
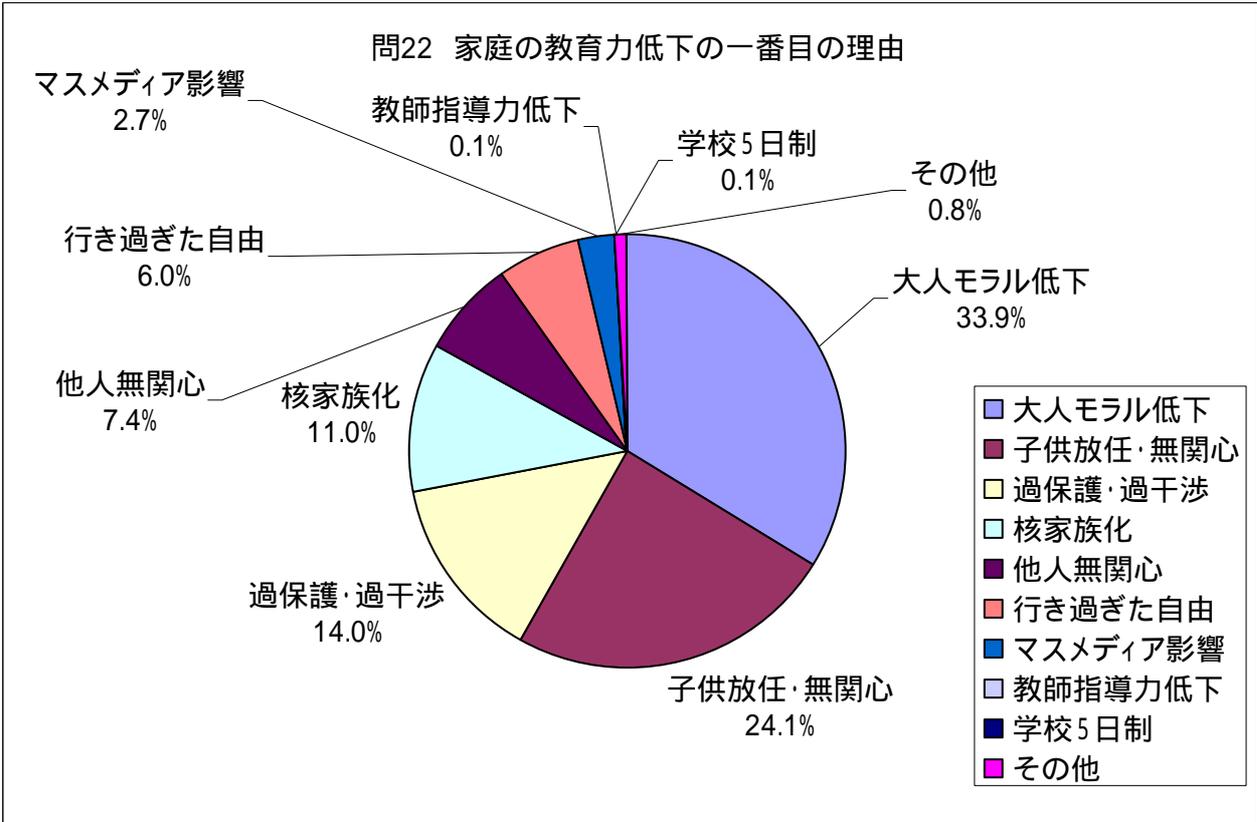
- | | | |
|-------------------|-----------------|----------------|
| 選択肢 (1) 家族を大事にする人 | (2) 地位や名声のある人 | (3) 社会で信頼される人 |
| (4) 誠実な人 | (5) 他人に迷惑を掛けない人 | (6) 明るく朗らかな人 |
| (7) 学業成績が優秀な人 | (8) 健康な人 | (9) こつこつと努力する人 |
| (10) その他 | | |

		1位	2位	3位
幼稚園	一番	明るく朗らかな人 24.7%	健康な人 21.5%	迷惑をかけない人 17.2%
	二番	明るく朗らかな人 20.4%	迷惑をかけない人 17.2%	家族を大事にする 16.1%
	三番	こつこつと努力 20.4%	家族を大事にする 18.3%	誠実な人 12.9%
小学校	一番	誠実な人 26.9%	迷惑をかけない人 24.4%	明るく朗らかな人 12.4%
	二番	誠実な人 21.4%	迷惑をかけない人 20.8%	明るく朗らかな人 13.5%
	三番	こつこつと努力 25.2%	明るく朗らかな人 17.1%	社会で信頼される 13.5%
中学校	一番	誠実な人 28.6%	迷惑をかけない人 19.1%	社会で信頼される 17.7%
	二番	誠実な人 22.7%	迷惑をかけない人 19.0%	社会で信頼される 15.0%
	三番	こつこつと努力 24.6%	社会で信頼される 16.3%	明るく朗らかな人 13.8%
高等学校	一番	誠実な人 29.5%	社会で信頼される 19.9%	迷惑をかけない人 19.3%
	二番	誠実な人 21.6%	社会で信頼される 17.4%	迷惑をかけない人 16.1%
	三番	こつこつと努力 21.6%	社会で信頼される 18.3%	誠実な人 13.8%

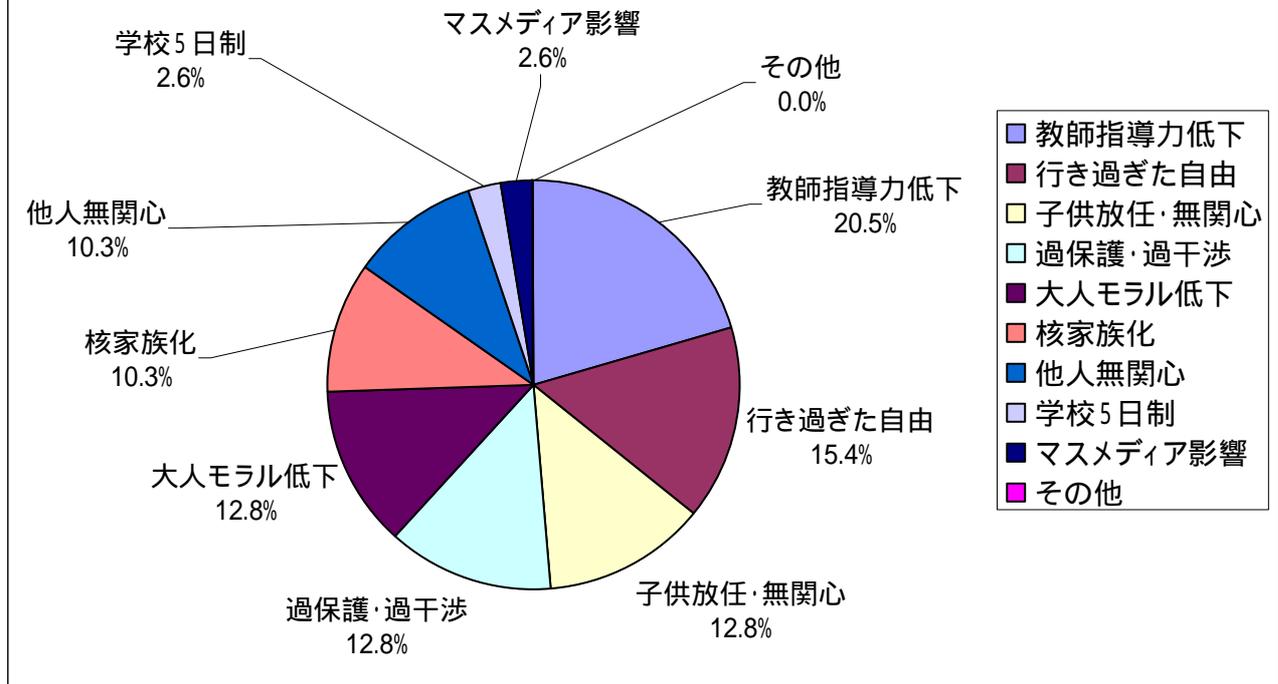
幼稚園や小学校では、「明るく朗らかな人」、「健康な人」など性格や身体面の要素の割合が高く、学年が進むにつれて、「誠実な人」、「他人に迷惑をかけない人」、「社会で信頼される人」など、よき社会人として求められる要素の割合が高くなっている。

オ 社会のルールやマナーを守る意識の低下について





問22 学校の教育力の低下の一番目の理由



教育力低下の理由からみると、「家庭の教育力の低下」、「地域社会の教育力の低下」を挙げている割合が非常に高い。これに対して、学校教育で何が出来るかを考えていく必要がある。子供への放任・無関心、子供への過保護・過干渉、他人に対しての無関心は、人間関係が希薄になっていたり、コミュニケーションがうまく行われていなかったりすることと関係があるのではないだろうか。集団生活を行う学校教育の特徴を生かし、友達や教員、地域とのかかわりを大切に、縦割りの活動や、地域とかかわる活動を行ったりするなかで、コミュニケーションのもつ素晴らしさを子供たちに実感させること、そして、それを家庭に、地域社会に広めるような実践を行うことも大切ではないだろうか。また、大人モラルの低下が最大の理由に挙げられている。子供たちを中心にして、家庭や地域に働きかける必要性を感じる。そして、親同士、地域住民のかかわりあいもてる機会をつくっていきけるとよいのではないだろうか。

[本文に戻る](#)